

松江は「おいしい」の宝庫！

いただきます Itadaki Matsu

手仕事にふれた後は、松江のおいしい食べ物で腹ごしらえを。編集チームがこよなく愛すお店を、愛情たっぷりにご紹介します。朝食、昼食、おやつ、夕食と、旅の1日でコンプリートするのもおすすめです。

贅沢がすぎる朝食



Entry No.1

三度の飯よりおいしい物が好き！
デザイナーライター
フジワラ(鳥取)



たまたま出張で出会った松江ニューアーバンホテルの「こだわりの朝食」。その美味しさに感動し、それ以降、会う人会う人に「この朝食が良くてさあ」と喧伝するほど大好きになりました。島根産の食材にこだわり、穴道湖しじみ汁、しじみ飯はもちろんのどろろの干物や牛乳界の王様・木次バスチャライズ牛乳(嗚呼、贅沢...)、出雲産のはちみつ、アロエ(肉厚で美味しい)、出雲蕎麦...そして、私の胸が特に高鳴ったのが、自家製の洋風惣菜、チキンのグリル、ポテトグラタン...その一つ一つ、作り手のこだわりを感じる味でした。さらに、9階から穴道湖を眺めろすロケーションは最高、こんな朝を過ごしたら、その日1日が充実すること間違いなし。宿泊せずとも朝食のみいただけます。

【松江ニューアーバンホテル】 松江市西茶町40-1 TEL 0852-23-0003



美し、旨し、蒸し寿司



Entry No.2

ローカルフード好きの料理家
眼鏡山羊(東京)



玉手箱とはこのお寿司のことかしら！と思う美味しい出会い。店頭での暖簾には「創業明治20年、浪花寿司の清い文字。100年以上続く1品、セリドに文られた「蒸し寿司」の蓋を開けると、ふんわり良い香り！ほかほか酢飯の上に、鰯、海老、栗甘露煮、錦糸たまご、あこの焼きなどが、美しく盛られたお寿司に心ときめきます。一口食べると口福、セツトにあるシジミ汁も美味。さらにおすすめなのが「やくもいなり」で丁寧に煮た油揚げがふわふわ。蒸し寿司でお腹がいっぱい、という方もご安心を。お稲荷はお持ち帰りもできるんですよ。蒸し寿司など、長年愛されてきた料理は、ちよと松江の日常に近づいた気持ちにさせてくれます。美味しく満足した後は、味わいあるお店が立ち並ぶ界隈をぶらり、食後の甘味にも出会ってしまいそう！

【浪花寿司】 松江市東茶町27 TEL 0852-21-4540



母性の親子そば



Entry No.4

内蔵弱めの男
豆(鳥根)



あつたかいお出汁の上にふわふわ卵が漂う、「出雲そば」の隠れた名品「親子そば」。出雲そばの定番といえは、冷たいそばなら「割子」、温かいそばなら「釜揚げ」だから、お出汁の蕎麦は邪道と思う人もいるのかもしれないけど、僕はこのそばが一番好き。甘み少なめのすっきりした優しいお出汁は卵に守られているからかすともほかほか。そばの頂上に乗っかる刻み海苔の香りも相まってついつい全部飲み干してしまおう。とりわけ前日にお酒との合戦をぐぐり抜けた翌日の昼に食べる親子そばは本存在自体が母。ちなみにながの夏もやっぱり割子じゃなくてみょうがそばみたいなスーパースアプがめちやくちや美味しいのでおすすめです。

【出雲そば きがる】 松江市石橋町400-1 TEL 0852-21-3642



お店も和菓子も「ツウ」好み



Entry No.3

食は細いが断然甘党！
料理のつなぎ手
眼鏡山羊(東京)



堀川沿いの小道を歩いて風格のある建物を目にすると、そこには昔ながらのシヨーカーズに並べられた饅頭やカステラ。「このお店は何屋」と思い勇気を出して入ると、歴史ではなく時代を感じる「老舗和菓子店 風月堂さん。店内には、民藝運動に影響を及ぼした河井寛次郎の作品や棟方志功の書が「普通」に置かれているところがなんとステキ！お勤めの和菓子は、ほどよい甘さで、いくつでも食べてしまう。最中とザラメ糖を感じるカステラ。カステラをその場でカットしてもらって購入している。自分はずっとツウになった」と心の中で、ニヤニヤしやいます(笑)。風月堂さんの和菓子を普通に買える私って、少しだけ自慢したくなります。でも、緊張はご無用。気さくな店員さんとの何気ない会話で気持ちもすくなく和らいでいきます。ぜひぜひ、堪能あれ！

【風月堂】 松江市末次本町97 TEL 0852-21-3576



本当は1皿1人で食べたい オリーブの肉詰め



Entry No.5

主食が酒の
コピーライター
餅(鳥根)



行つて注文しなかったことが本当に1度もない「オリーブの肉詰めフリット」。自分では「つきだし」ということになってます。みちと詰まったお肉もオリーブもじゅわっとジュシーなのに、さくつと軽い。細かく砕いたシソ粉を2回つけるなど、仕込みが3日もかかるとか！指でつまんで食べているけど、ナイフでカットした断面も美。直径3センチに丁寧な仕事が終わっています。シチセサ「1人1皿」食べたのを我慢し、みんながデザートでやる時にこそり1人オリーブ肉詰めでもめることも。ナチーウェイもパズル無し、メニューも季節で変わるので、何回行つても飽きない名店です。のほんとしたオナー夫婦の距離感がまた心地よい。今じゃ県外行つても「Mardukでオリーブ肉詰めフリット食べたい」が口癖です。

【Marduk(マルドゥーク)】 松江市伊勢宮町503-1 TEL 0852-67-6334



お宮さん 袖師窯／尾野真弓

1年の幸福をもたらすとされる歳徳神の歳徳宮をモチーフにした松江の郷土玩具「お宮さん」。江戸時代初期から作られ、大正・昭和と何代かの作者を経て、2022年に袖師窯の尾野真弓さんの手によって復刻とげました。材料は檜のおとし會木。島根で手に入らず探したところ、福島県の漆刷毛職人・内海志保さんから漆刷毛の端材を分けていただけることになりました。まずは端材を切つて各パーツに分けることから。パーツはすべて考えぬかれた寸法になっていて、組み立てた後に行う色付けでは、昔ながらの色合いを出すべく、岩絵の具と胡粉を使用。鮮やかな朱色が美しく、「この素晴らしいデザインをそのままつないでいきたい」と尾野さんは敬意を込めて語ります。

お宮さんの扉をちらっと開ける



尾野真弓(袖師窯)
松江市袖師町3-21
TEL 0852-21-3974

見聞録 Kenbunroku 手仕事 Teshigoto 松江 Matsue

藤吉瓶敷 出雲民藝紙 山野孝弘



江戸時代末期から続く松江藩藤細工の職人・長崎家。籠やお茶道具などを主流としていた長崎家が、「日用品」に寄せてくつたものの一つが「藤吉瓶敷」です。昭和31年の新作民藝展ではじめてお披露目され、知事賞を受賞した伝統工芸品で「藤吉瓶敷」の名は先代の長崎藤吉さんに由来します。その後、藤吉瓶敷の技術は6代目・長崎誠さんから、出雲民藝紙の紙漉き職人である山野さんへ。「長崎さんのつく

るものの中でも、民藝が背景にあるものだけを教えていただいている」と山野さんは言います。花器や土瓶、鍋などの下に敷くだけでなく、壁やテーブルの上に飾っても美しい瓶敷。時間が経つと色が濃く、艶色っぽくなり、経年変化を楽しむながら愛用できる日用品です。「重たいものを置いた時に少しぐんぐんとするのがいい」と山野さん。実は瓶敷には裏表があり、継ぎ目などはすべて裏に隠すようにつくられています。藤細工には「目に見えないさりげない仕事」がたくさん散りばめられています。



山野孝弘(出雲民藝紙)
松江市八雲町東岩坂
TEL 0852-54-0303



お魚の 箸置き 布志名焼／湯町窯



湯町窯
島根県松江市
玉湯町湯町965-1
TEL 0852-62-0726

「魚魚」「三彩魚」の4種で、その時々でどれに出会えるかもお楽しみ。黄色魚は描き落とし、鮎黒魚はスリッブウエアで、魚の鱗や目が描かれています。箸置きは小さいためすぐ乾き、乾くと描く線に強弱がつけられなくなるため、手に持てるか持てないかの硬さの時に絵をつけるのがポイントです。一つ一つ顔が違っていて、それがまた味わい深く、並べて表情を見て、お気に入りを選ぶのもまた楽しみの一つです。

Column 奥ゆか市民

おもてなしで出てくる飲み物といえば、コーヒー、番茶、煎茶などが一般的。けれど松江では抹茶が出てくるのが多々あり、横にはお菓子やお手製のお漬物などがちょこっと添えられている。大のお茶好きでもあった松平家7代藩主・松平治郷(不味公)の頃から、今も松江の日常に根付いている茶の湯文化と、さりげないおもてなしの心に、少し控えめな松江人の気質が表れる、日常のほっこり一幕だ。



偏愛的名品鑑

Henaiteki Meihinkan

どの作品も大事だけれど、特に愛しい一品が、作り手にこそある。そんな思い入れが強い偏愛的名品を、作り手さんご自身にご紹介いただきました。

- ①気に入っているポイント
- ②おすすめの使い方
- ③作るときに意識したこと、苦労したこと

- 🏠 工房見学OK
- 🏪 店舗にて購入可能
- 👤 体験・ワークショップ有

※すべて事前のお問い合わせが必要です

掲載している名品はこちらでご購入いただけます。

山陰・松江のこしらへ



1 縹縹コーヒーマグ



①色合いのグラデーションがとても綺麗。②使っても飾っても映える!③釉薬にピンホールが出なくなる為に数年かかりました。一つ一つ吹きつけて釉掛けするので、とても手間がかかり Instagram

お問い合わせ先 @uchida_kazuhide

2 振出 furidashi



①茶道具の振出を、小さいサイズや口の細さなどを意識してつくりました。②茶道具としてはもちろん、フリスクを入れて卓上に置いたり、清めの塩を入れて玄関に置いていただいたりしています。③外側は彫りで凹凸を作っています。彫りの深いところは釉薬が濃くなるので、考慮して彫りの深さを調整するところに苦労します。 ECサイト

お問い合わせ先 @kaori.suto

5 蒼碧釉のマグ



①山陰の日本海をイメージした釉薬が気に入っています。②毎日のこだわりのコーヒーを入れてお使いください。③釉薬の流れ具合を調整するのに苦労しました。 WEBサイト

お問い合わせ先 @mumeigama

6 ずきんちゃんブローチ



①よりよき歩きだったわが子がモデルです。ニコニコ笑顔は人を笑顔にする不思議な力があります。②洋服のえり元、帽子やカバン、ピンが刺さる所なら何処でも。③見る人がニコニコになるようにひとつずつ手描きしています。ガラス絵の具を定着させるのに3、4回ほど550℃で焼き付けます。 WEBサイト

お問い合わせ先 @glass_house_pase

9 風景シリーズ



①フリーハンドで唯一無二の表現を、限られた道具の中で、壮大な風景として形にしているところです。②普段から愛用することで、視線に入った瞬間に豊かな表現を感じられます。③限られた厚さの中で奥行を持たせるために工夫を重ね、緻密さを追い求めて得た新しい独特な表現の彫刻。 WEBサイト

お問い合わせ先 @leather_craft_mikoto

10 アフリカ鉢



①土器のような肌合いと縁のリズミカルな模様がアフリカの料理を引き立てます。②タンダーリーチキンなどのエスニック系は特に似合います。③深みと質感の出る土のブレンドと縁取りのデザインがしっくりくるまで長くかかりました。 facebook

お問い合わせ先 @imamiyakoubou

3 蓮紋カップ&ソーサー



①自分自身ですごくカッコイイ気に入っている作品です。②気兼ねなく普段使って使って欲しいです。③洗ひの感じの黄と赤の組み合わせにしたいと思いました。 ECサイト

お問い合わせ先 TEL 0852-24-1672

4 浮遊僧 一輪挿し



①カワイイのかコワイのかよくわからないところ、ネーミングも気に入っています。②無造作に野草を飾るのがおすすめです。③ただただ楽しんで作りました(笑)。 Instagram

お問い合わせ先 @vanguai_koubou

7 八雲びいどろ(酒グラス)



①八雲びいどろ(ガラス漆器)は珍しい技法で初めて見た!と言われる事も。ガラスと漆ならではの美しさと面白さを楽しんでください。②強固な技法を用いているので、場所を選ばず安心して使って下さい。③古くから伝えられているガラスに漆を塗る特別な手法は習得が難しく、失敗続きで何度も諦めそうになりました。 ECサイト

お問い合わせ先 @yakumoeshi

8 series白 楕円皿



①障子にうつる影、溶けかけの雪をイメージ。上品で緊張感のある器となりました!②おにぎり・卵焼き・お漬物でランチプレートに。③模様を釉薬で描くという技法を思い立ち、釉薬の組み合わせ焼成温度など試行錯誤。完成後、粘土の調子が変わり粘土・釉薬ともにまた試行錯誤。 ECサイト

お問い合わせ先 @matsumoto.naoko

13 お弁当箱



①木を賢沢に削り貫いて制作し少し柔らかみのある楕円の形。②シミなど気にせず普段使いをして頂いた方が良いアジが出てきます。③使い勝手が良い。 WEBサイト

お問い合わせ先 @fujiwaramasashi

体験・見学・教室

国指定の伝統的工芸品「出雲石灯ろう」の原材料である来待石の博物館。日曜日は来待石職人の実演を見学できます。 ※商品購入も可能:来待石灯ろう協同組合商品及び地元陶芸作家陶器

〒699-0404 松江市穴道町東来待1574-1 TEL 0852-66-9050 https://www.kimachistone.com/ OPEN 午前9時~午後5時 CLOSE 火曜日 (祝日の場合は翌日休館) 年末年始

16 蝶々のブローチ



①つまみ細工の技法を用いて丁寧にブローチを拵えました。②ムラ染めした布で独特の色合いを表現しています。③大人がつけて楽しめるつまみ細工です。掌に収まるドラマチックな世界をお楽しみください。 ECサイト

※体験・ワークショップは人数制限があります。

お問い合わせ先 @cyobi8108

安部榮四郎記念館

安部榮四郎が築き上げた出雲民藝紙の紹介はもちろん、民藝運動を通して出会った仲間達の作品が展示されています。また、子どもから大人まで紙作りを体験できる伝習所も併設しています。 ※事前にお電話でお問い合わせください。

〒690-2102 松江市八雲町東岩坂1754 TEL 0852-54-1745 https://izumomingeishi.com/abeeishirou/ OPEN 午前9時~午後4時30分 CLOSE 火曜日 (祝日の場合は翌日休館) 年末年始、展示替え期間中

14 ガーゼストール



①寒い季節だけではなく、働く布として一年中大活躍してくれるお守りのような逸品です。②ストールやひざ掛けとしてのほかに、冷房や日除け対策、お昼寝のガーゼケットなど...③洗うほどにガーゼがふっくら柔らかくなるので、しっかりと洗い掛けて仕上げています。 ECサイト

お問い合わせ先 @warmie2005

15 黒釉水玉柄シリーズ



①シックな黒釉を背景にして水玉柄をちりばめたシリーズです。②どのシーンでも使いやすいシリーズです。③水玉柄の配置や間隔で全体の見え方が違って見えるので気を遣います。 facebook

お問い合わせ先 @takahashikoujigama

19 花卉皿



①刷毛目をつかって彩の表情を与えるところ。②「暮らして馴染む」ものづくりに惹かれます。③クセのある土を使うため均一な形を作り難いが、逆にそれがユニークで独特な作品を生み出します。 ECサイト

お問い合わせ先 TEL 0852-26-3003

松江和紙でまり・藍でまり

故絹川ツネノにより松江和紙でまり・藍でまりを創始。工房では展示販売、でまりの体験教室等、松江和紙でまりの魅力や伝承を伝えると共に、でまり教室も開催しています。 ※開所日等、詳しくはホームページをご覧ください。体験ご希望の方は予め電話またはお問い合わせからご予約ください。

〒690-0873 松江市内中原町244-4 TEL 0852-33-7973 https://www.washitemari.jp/ WEBサイト

OPEN 午前9時~午後4時 CLOSE 火曜日・木曜日

18 まこものしめかざり



①まこもという天然素材ならではの表情豊かさ。日本の文化であるしめかざりを、暮らしの中で楽しみたいだけけるサイズ感。②車の中や、水回りなど。麻ひもで簡単にかけることができます。③収穫・乾燥・仕上げと準備から始まります。稲わらに比べ一本一本がしっかりしているため、小ぶりでバランス良い形に編みあげるのは力が必要です。 ECサイト

お問い合わせ先 @izumo.shime

出雲かんべの里

松江市郊外、国宝神魂(かもす)神社すぐ近くにある「松江藩籾細工、木工、機織り、陶芸」など、ものづくりの醍醐味が体験できる施設です。 ※事前にお問い合わせください。

〒690-0033 松江市大庭町1614 TEL 0852-28-0040 https://kanbensato.com/ OPEN 午前9時~午後5時 CLOSE 火曜日 (祝日の場合は翌日休館) WEBサイト

17 鍋掴み/コースター



①植物染めの木綿糸と藍染の木綿糸で手織りで作った鍋掴み。②「暮らしに馴染む」ものづくりに惹かれます。③植物で染めて織ってきたものは、自然と落ち着きを感じられると思います。 ECサイト

お問い合わせ先 TEL 0852-23-6661

11 シロツメクサのパネル



①花かんむりを元にしたデザイン。②玄関やキッチン、お手洗いにもおすすめです。③本物のシロツメクサで同じ花かんむりをいくつも作れないように、パネルも一枚一枚違います。年数とともに褪せる色合いも楽しめる配色を心がけました。 ECサイト

お問い合わせ先 @atelier_hos_ta

12 真鍮のブローチ



①他のアクセサリーは少しずつデザインも素材も変化していますが、これは約20年前からずっと作り続けています。②コートや靴・帽子だけでなく、素材が軽いのでTシャツやブラウスのような薄手の物にも◎③単色なのでシルエットだけで何のモチーフかわかるように工夫しています。かわいすぎず、リアルすぎずのバランスを意識しています。 ECサイト

お問い合わせ先 @f.yamaneko02

11 モニュメント・ミュージアム 来待ストーン

国指定の伝統的工芸品「出雲石灯ろう」の原材料である来待石の博物館。日曜日は来待石職人の実演を見学できます。 ※商品購入も可能:来待石灯ろう協同組合商品及び地元陶芸作家陶器

〒699-0404 松江市穴道町東来待1574-1 TEL 0852-66-9050 https://www.kimachistone.com/ OPEN 午前9時~午後5時 CLOSE 火曜日 (祝日の場合は翌日休館) 年末年始

11 アトリエホスタ



①花かんむりを元にしたデザイン。②玄関やキッチン、お手洗いにもおすすめです。③本物のシロツメクサで同じ花かんむりをいくつも作れないように、パネルも一枚一枚違います。年数とともに褪せる色合いも楽しめる配色を心がけました。 ECサイト

お問い合わせ先 @atelier_hos_ta

11 シロツメクサのパネル



①花かんむりを元にしたデザイン。②玄関やキッチン、お手洗いにもおすすめです。③本物のシロツメクサで同じ花かんむりをいくつも作れないように、パネルも一枚一枚違います。年数とともに褪せる色合いも楽しめる配色を心がけました。 ECサイト

お問い合わせ先 @atelier_hos_ta

14 ガーゼストール



①寒い季節だけではなく、働く布として一年中大活躍してくれるお守りのような逸品です。②ストールやひざ掛けとしてのほかに、冷房や日除け対策、お昼寝のガーゼケットなど...③洗うほどにガーゼがふっくら柔らかくなるので、しっかりと洗い掛けて仕上げています。 ECサイト

お問い合わせ先 @warmie2005

15 黒釉水玉柄シリーズ



①シックな黒釉を背景にして水玉柄をちりばめたシリーズです。②どのシーンでも使いやすいシリーズです。③水玉柄の配置や間隔で全体の見え方が違って見えるので気を遣います。 facebook

お問い合わせ先 @takahashikoujigama

17 鍋掴み/コースター



①植物染めの木綿糸と藍染の木綿糸で手織りで作った鍋掴み。②「暮らしに馴染む」ものづくりに惹かれます。③植物で染めて織ってきたものは、自然と落ち着きを感じられると思います。 ECサイト

お問い合わせ先 TEL 0852-23-6661

18 まこものしめかざり



①まこもという天然素材ならではの表情豊かさ。日本の文化であるしめかざりを、暮らしの中で楽しみたいだけけるサイズ感。②車の中や、水回りなど。麻ひもで簡単にかけることができます。③収穫・乾燥・仕上げと準備から始まります。稲わらに比べ一本一本がしっかりしているため、小ぶりでバランス良い形に編みあげるのは力が必要です。 ECサイト

お問い合わせ先 @izumo.shime

19 花卉皿



①刷毛目をつかって彩の表情を与えるところ。②「暮らして馴染む」ものづくりに惹かれます。③クセのある土を使うため均一な形を作り難いが、逆にそれがユニークで独特な作品を生み出します。 ECサイト

お問い合わせ先 TEL 0852-26-3003

出雲かんべの里

松江市郊外、国宝神魂(かもす)神社すぐ近くにある「松江藩籾細工、木工、機織り、陶芸」など、ものづくりの醍醐味が体験できる施設です。 ※事前にお問い合わせください。

〒690-0033 松江市大庭町1614 TEL 0852-28-0040 https://kanbensato.com/ OPEN 午前9時~午後5時 CLOSE 火曜日 (祝日の場合は翌日休館) WEBサイト